

第1回 明るく豊かで健やかな防府創出会議 議事概要等

■ 開催日時・場所

令和2年6月4日（木）午前10時から午前11時20分まで
防府市役所1号館3階 南北会議室

■ 次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 会長及び副会長の選出
- 4 会長あいさつ
- 5 議題
 - (1) 第4次総合計画の検証について
 - (2) 市民アンケート調査結果分析について
 - (3) 第5次総合計画の策定方針について
 - (4) 意見交換
- 6 その他

■ 配布資料

	資料名	番号
1	第4次総合計画の検証【総括版】	資料1-1
2	第4次総合計画の検証【詳細版】	資料1-2
3	まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証【詳細版】	資料1-3
4	参考資料（主要統計データ）	資料1-4
5	市民アンケート調査結果分析	資料2-1
6	市民アンケート調査結果報告書	資料2-2
7	第5次総合計画 策定方針	資料3

■ 出席者名簿

敬称略・順不同

	区 分	所属団体等	名 前	出欠
委 員	学識経験を有する者	国立大学法人 山口大学経済学部 教授	仲間 瑞樹	出席
	各種団体の推薦を 受けた者	山口県漁業協同組合 吉佐支店	阿部 寿幸	出席
		防府市母子保健推進協議会	池永 悦子	出席
		山口県農業協同組合 防府とくち統括本部	石丸 和美	出席
		防府市文化協会	岡本 早智子	出席
		防府市幼稚園連盟	柏村 千恵子	出席
		防府市保育協会	上司 光子	出席
		防府市スポーツ協会	久保田 小百合	出席
		防府青年会議所	島田 一道	出席
		防府観光コンベンション協会	田村 裕之	出席
		山口県立防府商工高等学校	中村 英哲	出席
		防府市社会福祉協議会	藤津 典久	出席
		防府商工会議所	松田 和彦	出席
		連合山口県央地域協議会	港 圭介	出席
		東山口信用金庫	守田 誠	出席
		防府市自治会連合会	山崎 博英	出席
		防府医師会	山本 一成	出席
		防府市PTA連合会	蘭 一美	出席
	公募の手續により 決定した者	公募委員	柴田 優爾	出席
公募委員		平井 佐和子	出席	
事 務 局	市長	池田 豊		
	総合政策部長	小野 浩誠		
	総合政策部次長	杉江 純一		
	企画経営課長	松村 訓規		
	企画経営課 戦略企画室長	関屋 拓亮		
	企画経営課 行政経営改革室長	須藤 千鶴		
	企画経営課 企画係長	末富 真一郎		
	企画経営課 企画係主任	渋谷 壮平		
	企画経営課 企画係主任主事	飯分 徹		

■ 議事概要

次第1 開 会

次第2 市長あいさつ

- | | |
|-----|---|
| 市 長 | <ul style="list-style-type: none">・ 防府市の将来を見据えながら、令和の時代にふさわしい防府の計画を作っていきたい。・ 新型コロナウイルス感染症の影響による生活を取り巻く環境の変化を踏まえた計画になるように作っていきたい。・ 何よりもわかりやすい計画にしたい。5年という計画期間に防府は何をやっていくんだということを示していく計画にしていきたい。・ 会議の名称は、昭和38年に制定された防府市の市民の誓いを踏まえたものとしている。・ 市民と一緒にあって、委員の皆様の意見を聞きながら、明るく豊かで健やかな防府の実現に繋がる計画を作っていきたい。 |
|-----|---|

次第3 会長及び副会長の選出

明るく豊かで健やかな防府創出会議設置要綱第4条に基づき委員による互選を行った結果、山口大学教授の仲間委員を会長に、防府市自治会連合会の山崎委員を副会長に選出。

次第4 会長あいさつ

- | | |
|-----|---|
| 会 長 | <ul style="list-style-type: none">・ この会議で委員の皆様に検討していただく新しい第5次防府市総合計画には、いくつかの役割がある。・ これからのまちづくりを進めるための指針といった役割が最も大きな役割だと私は感じている。・ 市長の挨拶でもあったように、これからの防府市の将来を見据え、やるべきことはしっかり、そして市民に分かりやすく伝えていくといった部分を大切にし、このまちづくりを進めるための指針、新しい第5次防府市総合計画の策定に結び付ける必要がある。・ 各委員の皆様におかれては、それぞれのお立場と経験から忌憚のない意見や提言を出していただきたい。 |
|-----|---|

(「防府市自治基本条例」と「防府市審議会等の設置及び運営に関する要綱」に基づき、「公開」することを承認)

次第5 議題（1）第4次総合計画の検証について～（3）第5次総合計画の策定方針について

（事務局から資料1—1～資料3を一括説明。質問・意見等なし）

次第5 議題（4）意見交換

- A 委員**
- ・新築地町にある防府市場（魚市場）は、昭和60年の9月に開場で、経年劣化による老朽化等々もあり、今後この市場をどうしていくのかということを市の協力を得ながら考えている。
 - ・組合員数も減少し高齢化も進んでいる。平成18年の合併時は、吉佐管内でも416名いたが、平成30年は、ほぼ半減の207名である。また、65歳以上が全組合員の70%を占めるということで、高齢化や後継者不足というのが近々の課題になっている。
 - ・新規漁業者対策も行っており、17名が着業し、それぞれ各支所の組合員として頑張っている。
 - ・魚の水揚げが減っている中で、天然魚だけに頼ってはいられないため、市の援助を受けながら種苗放流して魚を育てる取組も行っている。
 - ・夏場にかけて鱧が主要な水揚げ魚種になってくるが、新型コロナウイルスの影響で関西方面へ出荷ができない状況のため色々考えていきたい。
 - ・道の駅潮彩市場防府が隣接していることから、しっかり連携を取り協力しながら、魚食普及や魚の販売について頑張っていきたい。
- B 委員**
- ・母子保健推進員の主な活動の中に家庭訪問（年間約3,800件）と子育てサークル活動がある。家庭訪問時にとっても悩んでおられる方もあり、その様な場合は保健センターに連絡し、保健師に再度訪問してもらうようにしている。
 - ・防府市は工業地域でもあることから市外からの転入者が多い。そのため周りに相談する人もなく、子育てに不安を抱えている方もおられる。よって、妊婦の時から切れ目のない見守りをしていかないとはいけません。
 - ・年に一度、150組の親子を集めて「わいわいHOFUっ子の集い」を開催している。そこでママ友ができることもあり大盛況でとても喜ばれている。
 - ・防府市の親子が健やかに健全に明るく楽しく過ごせるように、これからも地域のサポーターとして、行政と一緒に切れ目のない援助をすることこそが一番大切ではないかと思う。
- C 委員**
- ・高齢化による農業者の減少、耕作放棄地の増加が非常に大きな問題である。
 - ・新規就農者も少なく、令和元年度は0人、その前年は2人。
 - ・防府市管内の特産品については、天神みかん、レザーファンがある。知名度を上げていくことや後継者を増やしていくことが課題である。
 - ・防府やさい部会（小松菜班）は、令和元年6月にJGAPの団体認証を県内で初めて取得した。新規就農者の受入れを広くアピールするとともに、春菊・小松菜・

ほうれん草を防府市の特産品としても位置づけていきたい。

- ・玉ねぎの面積拡大に向けて市や県の協力を得ながら取り組んでいるが、重量野菜ということもあり面積拡大に至っていない。機械を使って労力をできるだけ少なくすることもやっていきたい。
- ・防府市には農業大学校がある。また、農業試験場も移転されるため、防府市が農業の拠点になるということも考え取り組みを進めていかないといけない。

D 委員

- ・施策3-2「生涯学習の推進」について。防府市は、立派な生涯学習の推進を続けており、嬉しく思っている。その中で、「公民館」は市民の身近にある生涯学習施設として、位置づけられてきた。今後、「公民館」に新しく複合機能をもたせる等の検討が進められる場合には、この位置づけを大事にして、検討を進めていただきたい。
- ・新庁舎の建設に当たり、文化福祉会館内の文化センター部分が、新庁舎内とルルサス防府内に分割移転される形で新しい文化センターになるようであるが、これらの移転は、文化センターの運営に切れ目が生じないようにお願いしたい。多くの市民から喜ばれるような新文化センターの誕生を期待している。
- ・施策3-5「文化芸術の振興」について。文化協会の活動は、防府市の文化の薫り溢れるまちづくりを進めるために、今後ますます、老若男女世代を超えて繋がりが合いながら、しっかりと活動を広め高めていかなければと考えている。
- ・「山頭火ふるさと館」は、山頭火を顕彰し、学ぶ生涯学習施設として、現在、多様な学習や交流等の機会を設けており、その成果も徐々に上がりつつある。この歩みは、これからも地道に続けて、「防府に住んで、山頭火のことを知らない市民はいない。」と言えるようになるのが望ましい姿ではなかろうか。片や、観光施設としての役割については、当館の施設の規模や内容からして、積極的になっていくが、とりあえず、近隣の観光に合せて当館にも寄っていただける努力をすることは重要であろう。まだ、開館して3年目、地道で着実な歩みに期待したい。

E 委員

- ・少子高齢化に伴い子どもが減少し、共働きの方が増えてきているため、幼稚園だけの運営では難しくなり、認定こども園へ移行している。
- ・保護者同士の関わりも少なくなってきており、幼稚園だけではなく地域の機関を利用して、保護者がストレスを抱えず、子育てができる環境が必要と感じている。
- ・地域に関わることで人との絆を深めて、子どもたちが成長してほしい。

F 委員

- ・最近保護者の方が一人で奮闘されている姿をよく見る。子どもに「安心・安全・安定」な保育の場を提供するとともに、保護者が負担を感じず子育てができるように支援することがいかに重要かということ、新型コロナ禍で更に痛感した。
“子育てするなら「防府市」と実感できるまちづくりを考えていきたい。
- ・多様なニーズに沿った保育を実現していきたいが保育士不足という社会問題により阻まれている実情がある。キャリア教育として小・中・高校の職場体験等で乳幼児保育を知る機会を継続して設定していただき、保育士・幼稚園教諭の仕事に

興味・関心・憧れをもってもらえたらと期待している。

- ・ 幼保小の連携については、義務教育への円滑な移行の一環として、近隣の小学校から1年間の長期研修で乳幼児教育に携わっていただくというシステムの恩恵を受けている。また、特別に配慮が必要な子どもについて防府市では教育委員会と保健センターが中心となり「5歳児発達相談」「就学相談」等の相談窓口が設置されている。今後も連携が充実し、配慮の必要な子どもの将来につながる支援ができるようになればと願っている。

G 委員

- ・ 一番のビッグイベントとして防府読売マラソンがあり、その関係で、各実業団が県内で合宿をしている。防府市内に誘致している実業団は今7団体いるが、宿泊条件等が合わず、引受けのホテルが少なく困っている。
- ・ ソフト面では、合宿中の練習コース（旧マラソンコース（右田から徳地））にのぼりを立てたり、各地区に依頼をしてトイレや更衣室等を借用したりしている。また、コースの除草等々もしている。
- ・ ハード面では、実業団の監督から、練習コースの整備やトライアスロンコースの整備希望を聞いている。
- ・ 防府読売マラソンの前日は各招待選手の監督も来ているため、合宿の誘致の説明をする場を設けたらどうかということも聞いている。
- ・ 各種目団体へは、中国大会以上の大会の誘致をお願いするとともに、大会時にはコンベンション協会と一緒に物販を行うなど経済効果にもつなげている。
- ・ 未来の選手の育成として、子どもたちのきっかけ作りに、各種目団体の体験会、トップアスリートを呼んでの教室も開催している。

H 委員

- ・ 市民アンケートのプロット図を見ると、交流・移住のポイントが低いと感じている。我々が色々やっているところは、あまり重要視されていないのかなと思っており、今後の一つの課題と思っている。
- ・ 学校にはエアコンも設置され、タブレットの配備も予定されており、子どもたちにとっては非常に良い環境にあると思っている。しかし、その子どもたちが一定の年齢層になると出ていってしまう。出ていくのはある程度仕方がない部分もあると思うが、帰ってきやすい環境をいかに構築していくかがこれからの一つの課題である。子どもたちに対する何かしらのサービスであるとか、働きたいと思う企業がもっとたくさん増えることも重要なことである。

I 委員

- ・ 市民アンケートのプロット図を見ると、観光分野の満足度・重要度ともに、市民の皆様に満足いただける実績を出していくには、まだまだやるべきことがたくさんあるということを実感した。
- ・ 新型コロナウイルス終息後の反転攻勢、こういったものに向け、今は助走期間と位置づけ、しっかりと準備をしているところ。引き続きお力添えをお願いしたい。

- J 委員**
- ・防府市にある学校として、地域の皆様には、これまで多くの教育の場を提供いただき、感謝申し上げます。
 - ・社会に出ていく生徒が、社会や地域と関わっていくことで、防府市に対する当事者意識をもてるような教育を行っている。今後とも、こうした場を提供していただければ幸いです。
- K 委員**
- ・各分野において多種多様の目標が設定されると思うが、福祉分野は最優先課題の一つとされることを期待している。
 - ・総合計画を作るにあたり、一番重要なのは人口減を抑制すること。そのためには子育て世代の環境を整えて出生率を上げることや、社会的人口流入が重要だと思われる。
 - ・人口流入に関し、C C R Cについての検討を総合計画に載せることを提案したい。防府が都市間競争の中で、防府の特色を生かして、あるいは特色をつくる、そういった意気込みで総合計画を作ってはどうか。
- L 委員**
- ・新型コロナウイルスに関して、市役所と一緒に事業者向けの新型コロナウイルス関連の総合相談窓口を開設したが「終息はいつになるのだろうか」といった先が見えないことに対する不安感に関する相談が多い。
 - ・その不安感を払しょくすると安心し笑顔になるが、まちづくりもそうだと思う。何かが見えてくるとか、短期で計画がこうなるとか、そういうことが見えてくると皆さん安心するし、いろんな知恵も出てくる。わかりやすく、短期の5か年計画というのは、計画を立てる上で重要なことだと思う。
 - ・会議所も、中心市街地の活性化やまちづくりを行っているが、重要なのは雇用。今回の計画で一步踏み出て、みんなが自分事として一緒にやっていくことが重要になってくると思うので、皆が意見を出し合い、明るく豊かな計画の策定を一緒にやっていきたいと思っている。
- M 委員**
- ・市民アンケートのプロット図で非常に心が痛いのが、労働環境というところの満足度が低く、重要度が高いこと。労働界の立場として、いままでの活動プラスアルファで何かやっていかなければならない課題感を持っている。
 - ・将来、労働人口が減っていく中で、先程から雇用の話がでていますが、新型コロナウイルス関係で、各企業とも来年度の雇用は課題をもっている。例年以上に厳しい状況になっているが、新規雇用の維持を最優先で考えなければならぬ。
 - ・働く人が豊かに、安心・安全に働ける環境を整えていく為に、関係者、防府市と協力できるところはしっかりとやっていきたい。
- N 委員**
- ・新型コロナウイルスの影響で経済がかなり疲弊しているが、防府市においては、J T跡地や中関ゴルフ場跡地など、新しい形で企業誘致が進んでいる。
 - ・ロボット化やI T化で、なかなか難しいとは思いますが、雇用を伴う企業誘致をどんどん進めて欲しい。本社機能というか、決済機能をもった企業を誘致できれば、人口の増加、経済の活性化につながると思う。

- 委員**
- ・新型コロナウイルスの終息が見えない中、どういうビジョンをもって将来のまちづくりをしていくのか、コロナが今のままか、それ以上になることも少し想定しつつ作っていかないといけない悲観的なパターンと、それを抜きで、ものすごく楽観的に考えられるパターンと両極端をイメージして作っていく必要があるのではないか。
 - ・防府市内には山口県立総合医療センターという山口県の中核の病院があり、とても助かっておりありがたい存在である。
 - ・歯科医師会や薬剤師会と一緒に「防府市民健康フォーラム」を開催するなど、市民の健康・安心・安全を守り続けたい。
 - ・医師会も会員数が減ってきており、医療機関は最盛期の4分の3くらいになった。高齢化も進んでおり、医師不足、看護職員不足など様々な問題を抱えているが、頑張ってまちづくりや市民の健康維持を遂げていきたい。
- P 委員**
- ・二人の子どもを育てているが、子どもたちに、また防府に戻ってきたいか聞いたところ、「外に出てみたい、防府じゃないところを体験してみたい」と答えた。子どもたちが防府市に戻ってくること、それをどうしたらいいか、今から皆さんと一緒に考え、子どもにも伝えていきたい。
 - ・新型コロナの影響で中学2年生の職場体験が中止になった。高校受験を前に、どういところで働きたいか、どういう高校に行きたいかを、子供たちにもっと現実的に考えさせる行事である職場体験が中止になるのは残念である。学校それぞれの特色を生かして、何か子どもの役に立つことができたらと思っている。
 - ・休校による学校の勉強の遅れについては心配している。行政の方で協力いただけることがあればお願いしたい。
- Q 委員**
- ・長きにわたり生涯学習活動に参画しており、ボランティア活動や市民活動を行っている。これらの活動を通して、アイデアを出し実践していきたい。
 - ・アンケート資料等の分析などは大変参考になる。これらを参考にしながら実践していきたい。
- R 委員**
- ・自主的・主体的な市民活動の推進の目標指標に、市民活動支援センターの登録団体数とあるが、団体数が増えれば増えるほど良いかというのと、そうではないと考えている。
 - ・市民活動というと本当に様々な活動がある。例えば英会話などのサークル活動に近い活動を行っている団体が多く、一方で、社会課題の解決や障害者支援、子どもの貧困、防災といった課題解決をするための活動を行っている団体はほんの一握り。もちろん、サークル活動が悪いわけではないが、市民活動としては、課題解決に取り組む団体を特に力を入れて支援しながら、サークル活動を会の中だけで楽しむためのものではなくて、例えば日々の活動で培った英会話を活かして、市内在住の外国人の支援をするだとか、外国人観光客のガイドをするといった公

益活動につなげていく支援を行っている。

- ・そのような現状があるので、団体の数というよりは、活動の質に目を向けて、登録団体数の中でも公益活動を行っている団体の割合を高めていく必要があると考えている。

S 委員

- ・市民アンケートのプロット図について、自治会から見たときに、2つの点で興味がある。
- ・一つは地域住民の満足度・重要度が両方低いこと。広域連携とか、あるいは市民活動とか、市民の参画・協力なども要求度も低いし満足度も低い。ということは、地域住民はあまり地域づくりについて本気になっていない。しかし、自治会長としての経験では、いろいろな要求が出てくる。そういう意識があり地域づくりに興味を持っているなら一緒にやっていきたい。
- ・地域づくりのリーダーを育てたいが、声をかけても「やりましょう」という方が少ない。自治会連合会でも、なかなか新しい人が出てこない。その辺が一つ大きな課題と思う。
- ・もう一点、防災について満足度は中間ぐらいだが、重要度は非常に高い。実際に、市の自治会連合会等で「防災について、自治会はどうするかということを考えなければいけない」という声は大きく上がっている。今後、重要度は高いけれども、満足度は十分ではないところは、検討する必要があると感じている。

会 長

- ・本日の様々な意見等はいずれも貴重な意見である。事務局においては、十分整理検討をお願いしたい。

市 長

- ・本日の意見を踏まえながら、次回は骨子案を提示させていただく。今後も忌憚のない意見をいただきたい。皆さんと一緒に頑張って、素晴らしい計画、良い計画を作っていきたい。

～ 閉 会 ～